

鎌ヶ谷から子どもたちへの贈り物

鎌ヶ谷国際文化交流会 (ICECK)

代表 太田尻はる子

鎌ヶ谷国際文化交流会 (ICECK) は、今回フィリピン・ミンダナオ島の山岳先住民族の住む山深い村に、「ナブル鎌ヶ谷スクール」を2棟寄贈致しました。

ナブル村は、ミンダナオ島の山奥にあり橋のない川を20回も渡らないと、たどりつけない場所でした。たくさんの子供たちの教育のため学校建設が待ち望まれていたこと、初等教育も受けられないことを知り、心痛め、学校建設を決意したものです。

ICECKでは市内で、ジャズコンサート、異文化交流の祭典、会員持ち寄りバザー等で募金を集めております。その資金で、校舎建設にかかる費用、教師の1年分の給与を全額負担させていただきました。

そして、この度会員6名で「ナブル鎌ヶ谷スクール」の開校式に参列致しました。それは非常に厳かな儀式でした。ナブル住民代表、子供代表の感謝の言葉の後、ICECK代表から一生懸命勉強して下さいと、校舎2棟の目録を贈呈いたしました。ミンダナオ島と鎌ヶ谷の文化が溶け合った瞬間でした。子供たちの素朴で、シャイで、キラキラした眼差しに胸が熱くなりました。

休憩をはさみ、交流会をしました。子供たちのゲーム遊びの後、ICECKの準備したお手玉遊び、剣玉遊び。最後に、鎌ヶ谷音頭。子供も大人も一緒に会場いっぱいの盆踊り、何時までも続いて欲しい一時でした。そして、たくさんの感動をくれた子供たち、もう一度皆と輪になって歌って踊りたい。

夜、ゲストハウス近くの大きな木に蛍が群生していました。偶然なのかその真下にICECKが十年前建設支援した簡易水道の大きなタンクがあり、蛍を支えているようでした。

最後にミッションの皆様、村人の皆様、ご案内下さいました山崎様、本当にお世話になりました。お礼申し上げます。

(以下の写真はICECKに同行された吉田氏撮影)

<式典>



目録贈呈：左から太田尻・ゴンサロ先生・エドウィン神父・管区長・ナブル住民代表



ノート・鉛筆セット贈呈

<交流>



ナブルの子どもたちの宿舎となったキアミ六角教室の前で



少し緊張して剣玉リレーの順番を待つ子どもたち

<別れ>



ナブル村に帰る子どもたち



川を渡り、崖を伝ってジェネラルサントスに戻る ICECK 一行

<第11回社員総会報告>

5月22日(日)13時30分から、過去4年間継続して当団体の事業を支えていただいているWE21 ジャパンみどりの代表川端さんをゲストにお迎えし、総会が開催されました。社員会員の出席6名、表決委任25名で、議案の審議と承認をいただきました。ご意見の中には、ニーズが多い水道建設については助成金申請が遅滞なくできるように、予め現地のニーズや優先順位を検討しておくのがよい等がありました。議事録詳細については事務局にご請求下さい。

